

2024 年5月9日開催
2024 年3月期決算説明会での主な質疑応答

Q1 2025 年3月期業績予想の営業利益 289 億円に込められたメッセージは何か。

成長ガイダンスに沿った目標値であり、過去最高益を超える水準とした。

Q2 為替前提 142 円/USD に対して、円安傾向が続いた場合の業績への影響は？

150 円/USD 台前半であれば影響は限定的。それ以上の円安となっても、純利益段階では業績予想水準を確保していく。

Q3 2025 年3月期業績予想の上振れ余地があるとすればどの事業・地域か？

上振れ余地があるとすれば、マーケティング・生産・販売の良い連携による国内の販売数量増が期待出来る。価格・規格改定後の販売状況によるところが大きい。付加価値の高いじゃがりこや土産用製品等はまた余地があると考えている。

Q4 2024 年3月期の第4四半期に国内減益となった背景は？

2024 年6月実施予定の価格・規格改定に備えた販売モメンタムの維持のため、計画通りマーケティング投資を実行したことによるもの。

Q5 今期の販売費の考え方は？

リベートは抑制し積極的にマーケティング投資を行う方針に変わりはない。販売促進活動は前期と大きく変わらないが、前期抑制したリベートの一部戻りと株式会社オリエンタルランドとの提携に伴う費用増を見込んだ。

Q6 新規領域への投資は今期以降も継続するか？

成長戦略の期間中は利益も出しながら投資を実行していく。

Q7 今期の国内営業利益成長をどのようにとらえているか

昨年度下期からの良い販売モメンタムは継続。前期の高い販売をスタートラインとして販売増を見込んでいる。価格・規格改定後の消費者動向は見極めていきたい。

Q8 円安が続いた場合、更なる値上げをどのように考えているのか？

状況に応じ柔軟に考えていく。

Q9 北米事業は持続的な成長フェーズに入ったと考えているのか

PB/OEM 事業は下げ止まったと考えている。品質・コスト構造改善と新規受注獲得により収益改善を目指す。ナショナルブランドの Harvest Snaps と日本発ブランドは前期以上に拡販していく。

Q10 中華圏が成長軌道に戻るまでの時間軸は？

今期中に現地 OEM 生産を開始し、競争力のある価格で Jagabee、フルグラを販売し、来期での収益回復を目指す。

Q11 英国・インドネシアは今後も成長が期待できるか？

両地域とも構造的に収益改善が進んでおり、今後も成長が期待出来る。

Q12 財務戦略方針を見直すとのことだが、何を変えたのか？

今回は方針を示した段階であり、今後社内で具体的な検討、協議を進めていく。

Q13 株主還元方針に変更はあるか？

総還元性向 50%以上、DOE4%を目途に安定的な増配を目指す方針に変更はない。成長投資に資金は投じていくが、M&A 等の大きな資金需要が発生しなければ、機動的に判断する。

以上